



保育所等 訪問サービスについて



一般社団法人 RESTEP

保育所等訪問支援とは



保育所等訪問支援とは、
平成24年4月1日に改正児童福祉法により創設・施行された支援です。

支援が必要なお子さまが通っている保育園や幼稚園、
学校等に専門知識を持つスタッフが訪問し、

集団生活に適応するため、保護者様の希望を受け、
お子さまへの直接支援や、園・学校の先生や施設に間接支援を提供するサービスです。

保育所等の種類



保育園・幼稚園・小学校～高校・学童クラブ・養護支援学校など

子供が集団生活を送る場所となります。

その他は自治体の判断により適応されます。

通所支援サービスの課題



発達課題が見過ごされやすい

発達上の課題が保育園・幼稚園、学校などの集団場面で気づかれることが多いため、家庭や個別対応では問題が見えにくく、通所支援に至らないケースも多くあります。家庭では問題ないと思われていた子が、通園・通学をきっかけに集団生活の場で初めて発達障害かもしれないと気付かれることがあります。



通所支援サービスの課題

集団での活動で不応が出てきた

通所支援で身に付けたことを学校生活等の集団の場面で活かせず、
不応を起こすことも少なくありません。

保育園・幼稚園、学校などでの集団適応のため、通所支援以外の支援が必要となってきました。



通所支援サービスの課題

通所支援を卒業した後の支援が不十分

通所支援(児童発達、放課後等デイサービス)を終えて
小学校・中学校などへ移行した後のフォローが不十分であることがあります。

特にフォロー体制が制度上確保されていないことが問題です。





通所支援サービスの課題

立場によるニーズの違いによる転轍

保育園・幼稚園・小学校～高校・学童クラブ・養護支援学校など

子供が集団生活を送る場所となります。その他は自治体の判断により適応されます。





保育所等訪問支援の間隔

標準的には、2週間に1度を想定されています。

施設や子供の希望・状態によっては自治体の判断に基づき回数が変わることもあります。

例：不登校児の登校支援等

訪問先の仕事の関係上、負担にならない程度に月1回の支援などもあります。

1回の滞在時間は、2時間～半日。滞在後は訪問先の事情に合わせてフィードバックを行います。

方法は、対面、メール、オンライン等訪問先の事情に合わせた方法がございます。

訪問後、支援員は保護者様に様子を報告させていただきます。





保育所等訪問支援の意義



障害や特性によって、支援内容は子ども一人ひとり異なります。

その子に合ったオーダーメイドの専門的支援を普段生活する集団場面で直接的・間接的に行うことが発達・成長に有効です。

また、障害児通所施設等の適切なアセスメントに基づく実効性のある支援方法を、並行通園先や移行進学先に直接的・間接的に引き継いでいく事も大切です。





保育所等訪問支援を受けるメリット



子供は集団生活を安心して送れる

保育所等訪問支援を希望するのは、集団生活に不安を持っている子供が多いと言えます。クラスみんなと行動するのが苦手だったり、周りではできるのに自分だけできなかったり、集団のなかにいるからこそ見える特徴があります。



しかし、子供本人は、苦手や困り事があっても言葉で説明するのが難しい年齢のため、発達障害に詳しくない先生には対処が大変なこともあるかもしれません。

また、クラス全体を観なければならぬ中、一人の児童に対してだけ特別な支援を行うことにも難しさがあることが予想されます。

保育所等訪問支援では、児童発達支援、放課後等デイサービス等で働く有資格者のスタッフが学校に訪問し、学校や子供のお困り事に対して支援をして参ります。





保育所等訪問支援を受けるメリット



子供は集団生活を安心して送れる

支援内容は…

- 間接的支援・・・対象児童に関する専門的療育アドバイス、担任の先生の困りごとの相談等
- 直接支援・・・学校・担任の先生希望のもと、事前に取り決めた範囲内の支援
(教室移動・登校支援・授業のサポート等)
- パニックになってしまった子供のクールダウンの手伝い

などを行うことで、集団生活をスムーズする手助けになります。
支援方法は子供の特性によって様々です





保育所等訪問支援を受けるメリット

子供は集団生活を安心して送れる

また子供が通所支援に通っていた場合、多種多様な専門的資格を持つ有資格者から見た施設内の子供の特徴や、訪問することで見える新しい観点などを、担任の先生にお伝えすることができます。

訪問支援を行うことで、担任の先生が行う支援のサポートや学校生活における課題を持った子供に対する適切な支援も期待できます。

学校・家庭・通所施設の支援情報を共有しながら、ゆくゆくは子供自身の力で集団生活を送ることのできるようサポートして参ります。





保育所等訪問支援を受けるメリット



親は保育所等に安心して子供を通わせられる

子供が日中過ごしている保育園や小学校の様子を、仕事・育児・家事等により親はなかなか把握することが難しいです。
特に発達障害の子供は心配事が多いのではないのでしょうか。



保育園等訪問支援では訪問での間接的・直接支援に加え、園や学校での過ごし方を保護者の方に代わり学校に訪問することでお子様の様子を聞けるのがメリットです。



また訪問支援員は、保育士や先生・学校に子供の支援方法を共有できるので、保育園や学校の発達支援の向上が期待できます。



日中に長く過ごす園や学校での支援が向上すれば、子供にとって過ごしやすく、親も安心して通わせられます。



保育所等訪問支援を受けるメリット

保育士・教師の支援力のスキルアップを期待できる

保育士や教師へは、訪問支援員から間接的な支援が可能です。

間接的な支援とは、

ポイント

- ・ 訪問支援員から保育士や先生へ、児童の対応方法や支援方法を伝える
- ・ 訪問支援員「が子供の通う通所施設に直接支援して得られたことを共有する
- ・ 保育士や先生が子供に実際関わって得られたことを共有する

などを指し、保育士や教師の支援力のアップが期待できます。

保育所等訪問支援を受けるメリット



保育士・教師の支援力のスキルアップを期待できる

普通学級の保育士や教師にとって、発達障害の子供への支援は難しく対応にばらつきが出ると心配する親は少なくないでしょう。

子供の障害の特徴によっては、保育士や教師たちが疲れてしまい、さらに親にとって「ちゃんと対応してもらえない」と悲しい食い違いが起こることがあります。

訪問支援のスタッフが間に入ることで、子供への適切な支援が期待できますし、親も安心感を得られるのがメリットです。

また、普段お忙しい、保育士・先生・保護者の間に訪問支援員がはいることで情報共有がスムーズになり、支援内容を一貫することが行いやすくなります。児童に対し適切かつ、より効果が出やすい支援を提供することが出来ると考えてます。



END

